

d 3101 簡単な話し言葉の理解

要求（例：「ちょうだい」）や命令（例：「だめ」、「こっちにおいで」）などの簡単な話し言葉（2-3語）に、行為や言葉で適切に応えること。

d 3102 複雑な話し言葉の理解

質問や指示のような複雑な話し言葉（完全な文章）に、行為や言葉で適切に応えること。

d3152 絵と写真の理解

絵（例えば、線画、グラフィックデザイン、絵画、三次元表示、絵文字<象形文字など>）、グラフ、表、写真によって表される意味を理解すること。例えば、身長表の上向き線は子どもの成長を表すことを理解すること。

d 331 言語以前の発語（喃語）

近くに人がいることに気づくと声を出すこと。例えば、母親が近づくと声を立てるなど。片言を言うこと；相手とのやりとりに伴って片言を言うこと。相手とのやりとりで、話し言葉に応じて、語音をまねして声を出すこと。

d 332 歌うこと

一人あるいは集団で、旋律になるように楽音を連続して発することや、歌を歌うこと。

d3350 ジェスチャー・ボディ・ランゲージの表出

顔のジェスチャー（例えば、笑顔、しかめ面、困り顔）、腕と手の動きと姿勢などの意図的な身体の動き（例えば、愛情を示すための抱擁や人の注意を引くために指すこと、ものを指すこと）によって意味メッセージを伝えること。

d3500 会話の開始

例えば、アイ・コンタクトなどの方法で相手とのやりとりをはじめ、それがコミュニケーションや対話になるようなかたちで、人との交流や意見交換を開始すること。例えば、自己紹介、慣習的な挨拶、話題の導入、質問すること。

d3501 会話の持続

交互に声を出したり、話したり、身振りをしたりすることで意思の交換を継続したり、対話や意見交換を継続し、形成すること。アイデアを加えたり、新たな話題を導入したり、既に言及された話題に戻ったりすることで対話を形成すること。→交互に話したり身振りをしたりすることによる。

d3502 会話の終結

意見思の交換や対話を終わらせること。慣習的な終結の辞や表現や、討議中の話題を終結することによる。

d3503 一対一での会話

1人の人と、意見思の交換や対話を開始し、持続し、形成し、終結すること。例えば、母と子の間での、言語以前の遊び、ことばによる遊びの、声または言葉での意思交換、または友人と天気について話すこと。

d3504 多人数での会話

2人以上の人と、意見 思の 交換や対話を開始し、持続し、形成、終結すること。例えば、グループでの意見交換（例えば、机上のゲーム、学校でのクラス討論、非公式または公式の討論）を開始し、参加すること。

d3600 遠隔通信用具の利用

コミュニケーションの手段として、電話やその他の用具を用いること。例えば、ファックスやテレックス、コンピューター（e-メール）を使用すること。

d410 基本的な姿勢の変換

ある姿勢になること。ある姿勢をやめること。ある位置から他の位置への移動。例えば、ねがえり、座ること、立つこと、椅子から立ち上がってベッドに横になること。ひざまずいたり、しゃがむことやその姿勢をやめること。

d4107 ねがえり

横たわったまま、ある位置から他の位置に体を動かすこと、例えば、一方の側から他の側へ、また腹ばいから上向きになること。

d4155 頭位の保持

頭の位置を調節し、一定時間それを保持すること。

d430 物品を持ち上げて運ぶこと

カップやおもちゃを持ち上げたり、箱や子どもをある部屋から別の部屋へ運ぶ時のように、物品を持ち上げること、ある場所から別の場所へと物を持っていくこと。

d4302 腕に抱えて運ぶ

ペットや子どもやその他の大きな物品を運ぶことのように、腕と手を使って、物品をある場所から別の場所へと持っていき、あるいは移動させること。

d4303 肩・腰・背に担いで運ぶ

大きな荷物やスクールバックを運ぶことのように、肩、腰、背を使って、物品をある場所から別の場所へと持っていき、あるいは移動させること。

d4402 操作

コインや小さな物品を扱うこと、はさみで切ること、靴紐を結ぶこと、塗り絵に色を塗ること、箸やナイフやフォークを使うことのように、手指と手を使って、物品をあやつること。

d4403 放すこと

衣類やペット用フードを落とすことのように、落としたり、位置を変化させるために、手指と手を使って物品を離すこと。

d4450 引くこと

開まった紐を引っ張ったりドアを閉める引くことのように、手指や手、腕を使って、物品を自分の方向に引きよせたり、ある場所から他の場所へと動かすこと。

d4451 押すこと

おもちゃや ある動物を押しつける時のように、手指や手、腕を使って、物を自分から遠ざける方向に動かしたり、ある場所から他の場所へと動かすこと。

d4453 手や腕を回しひねること

道具や用具を使うために必要な手の動きのように、手指や手、腕を使って、物を回転させたり、回したり、曲げたりすること。例えば、歯磨きしたり、はし・ナイフ・フォーク類を洗ったりすること。

d446 細かな足の使用

足や足の指を用いて、物を動かしたり操作したりといった協調性のある行為を遂行すること。

d4555 すべることところがること

床から立ち上がらず、座位や臥位のままで、ある場所から別の場所へと移動すること

d4556 ずり足歩行

下肢を使うが、足底を床や地面から離さないで、ある場所から別の場所へと移動すること

d4601 自宅以外の屋内移動

自宅以外の屋内の歩行や移動。例えば、他人の住宅やその他の私的建物、コミュニティ用の私的あるいは公共建物、囲い込まれた区域内での移動。

d465 用具を用いての移動

移動を容易にしたり、ふつうと違う移動方法を可能にするように設計された特別な用具を用いて、ある場所から別の場所へとどのような歩行面や空間であろうと、全身を移動させること。例えば、スケート、スキー、スキューバダイビング用具、水泳用のフィン（足ひれ）などを使っての移動、車椅子や歩行器を使って通りを移動すること。

d470 交通機関や手段の利用

移動のために、乗客として交通機関や手段を用いること。例えば、自動車、バス、人力車、ミニバス、乳母車、ベビーカー、動物、動物の力による乗り物、私的なあるいは公共のタクシー、バス、電車、路面電車、地下鉄、船や飛行機に乗ること。

d4700 人力による交通手段の利用

乗客として、人力による交通手段を利用して移動すること。例えば、乳母車、ベビーカー、人力車や手こぎ舟に乗ること。

d4701 動力つきの私的交通手段の利用

乗客として私的な動力つきの交通手段を利用して地上、海上、空中を移動すること。例えば、車、タクシー、自家用の飛行機、船に乗客として乗ること。

d4703 交通手段としての人の利用

他の人によって移動すること。例えば、シートにくるんだり、背負ったり、移動用具を使ったりして

d520 身体各部の手入れ

含まれるもの：皮膚、歯、頭髪と髭、手足の爪、鼻 の手入れ。

d5205 鼻の手入れ

鼻を清潔にし、鼻の衛生に気をつけること

d530 排泄

排泄（生理、排尿、排便）を の必要性を表出し 計画し、実行するとともに、その後清潔にすること。

d53000 尿意の表出

d53001 排尿の適切な遂行

d53010 便意の表出

d53011 排便の適切な遂行

d5500 食べることの必要性の表出

d5501 食べることの適切な遂行

d5600 飲むことの必要性の表出

d5601 母乳を吸うこと

乳房からうまく吸い、授乳者と適切な行動で交流すること。例えば、アイコンタクト、必要性や満足を示すこと。

d5602 びんからのミルクを吸うこと

ミルク等の液体をびんからうまく吸い、授乳者と適切な行動で交流すること。例えば、アイコンタクト、必要性や満足を示すこと。

d570 健康に注意すること

身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保 し、またはその必要性を表出 すること。例えば、バランスのとれた食事をとること。適切なレベルの身体的活動を維持すること。適切な温度を保持すること。健康を害するものを避けること。コンドームの使用などによる安全な性生活を行なうこと。予防接種を受けること。定期的な健康診断を受けること。

d5700 身体的快適性の確保

快適な姿勢をとったり、暑すぎず寒すぎないように、また濡れた状態にないように したり、適当な照明下にあることの必要性を意識し、それを確保することで自分自身のケアをすること。

d57020 服薬をうまく行ったり健康上の助言に従うこと

d57021 養育者や専門家の助言や助力を求めること

d57022 薬物やアルコールの乱用のリスクを回避すること

d571 安全に注意すること

身体的な損傷や危害を起こすおそれのあるリスクを避ける。火をいたずらしたり、車の前に飛び出すといった危険を避けること。

d610 住居の入手

部屋や家やアパート、その他の住宅を購入あるいは賃借し、家具調度を整えること。

d6102 家具調度の整備

家具や設備、その他の部屋を装飾する備品を住居に据え付け、部屋を装飾すること。自分自身の空間や部屋をととのえること。

d6200 買い物

代金を支払い、日々の生活に必要な物商品とサービスを手りすること（仲介者に買物をするよう指導や監督することを含む）。例えば、店や市場で食料、飲み物、清掃用具、家庭用品、遊び道具、衣服を選択すること。必要な物商品の質や価格を比較すること。選択した物品、サービス、支払い交渉と支払い、物品の運搬。

d6302 調理の手伝い

他の人の指示に従って、自分や他人のための簡単なあるいは手の込んだ食事を、他の人々とともに計画し、準備し、調理し、配膳すること。

d6406 調理以外の家事の手伝い

他の人の指示に従って、他の人々とともに調理以外の家事を計画し、準備し、管理すること。

d650 家庭用品の管理

家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。その家庭用品等には、遊び道具、家とその内部、衣服、乗り物、福祉用具や、植物と動物の世話を含む。例えば、部屋の壁のペンキ塗り、壁紙貼り、家具の配置。配管の修理。乗り物が正常に動く状態に保っておくこと。植物の水やり、ペットと家畜の毛づくろいや餌をあげること。

d6507 家庭用品の管理の手伝い

他の人の指示に従って、他の人々とともに家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。

d660 他者への援助

家族や他人の学習、コミュニケーション、セルフケア、移動を、家の内外で援助したり、安寧を気遣うこと。ったり、それに他の人の注意を向けること。

d6606 他者への援助の手伝い

他の人の指示に従って、家族や他人のセルフケア、コミュニケーション、移動、対人関係、栄養摂取、健康維持への援助の提供を助けること。

d7100 対人関係における敬意と思いやり

状況に見合った社会的に適切な方法で、関心や同情、いたわりや敬意を示したり、それに対応したり、すること。

d71040 社会的対人関係の開始

他の人との相互的な社会的交流を適切に開始したり反応したりすること。

d71041 社会的対人関係の維持

社会的関係を継続するための行動の制御。

d7106 親しい人びとの判別

人によって違った反応をすること。例えば、親しい人には手をのばし、知らない人と区別すること。

d720 複雑な対人関係

含まれるもの:他の人と遊ぶこと、対人関係の形成や終結、対人関係における行動の制御。社会的ルールに従った相互関係あるいは社会的空間の維持。

d730 よく知らない人との関係

ある特定の理由があって、一時的によく知らない人と接触したり、遭遇すること。例えば、なんらかの情報や道を探ねたり、物を買うこと。

d740 公的な関係

公的な状況（教師、雇用主、専門家、サービス提供者との関係）において、特定な関係をつくり保つこと。

d810 非公式な教育

家庭やその他の非制度的な環境で学ぶこと。例えば、学業以外（例：工芸）の、あるいは学業（例：家庭学習）の技能を親や家族から家庭やコミュニティで学ぶこと。

d815 就学前教育

子どもを学校型環境へと導入し、義務教育の準備をするために主として作られた、家庭やコミュニティでの組織的な初歩レベルの教育で学ぶこと。例えば、就学の準備として、保育所または同様の環境（例：家庭やコミュニティでの教育サービスで、健康や認知・運動・言語・社会的発達や初等教育への準備となる技能の促進に向けたもの）で技能を獲得することを通じて、など。

d8150 就学前教育への入学・進級

就学前教育に入るのに必要な活動を行うこと。

d8151 就学前教育の継続

就学前教育への参加を継続するのに必要な活動を行うこと。例えば、授業に出席する、仲間や教師と適切に交流する、生徒としての義務や、求められていることを実行すること。

d8152 就学前教育の進行

就学前教育の習得に関連する履修要項やその他の評価過程を完了するのに必要な活動を行うこと。

d8153 就学前教育の終了

就学前教育を適切に修了して、次のレベルの学校教育に入ること。

d816 就学前教育時の生活や課外活動

就学前教育時の生活や課外活動（例：遠足や行事）に関与すること。

d8200 学校教育への就学・進級・進学

学校教育に就学し、また学校教育のある段階から次の段階へと移るのに必要なことを行うこと。

d8201 学校教育の継続

学校と学校活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば、授業に出席する、仲間や教師と適切に交流する、生徒としての義務や、求められていることを実行すること。

d8202 学校教育の進行

学校教育の修得に関連する履修要項や、試験、その他の評価過程を完了するのに必要なことを行うこと。

d8203 学校教育または学校レベルの修了

適切に学校を卒業して、次のレベルの学校教育、仕事、雇用、その他の成人生活の領域に入ること。

d8250 職業訓練の開始・進級

職業訓練に入り、また職業訓練の一つの段階から次の段階へと移行するのに必要なことを行うこと。

d8251 職業訓練の継続

職業訓練の活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば、授業に出席する、仲間や教師と適切に交流する、生徒としての義務や求められていることを実行すること。

d8252 職業訓練の進行

履修要項、試験、あるいは職業教育の受講に関連するその他の評価過程を完了するのに必要なことを行うこと。

d8253 職業訓練の終了

職業訓練を適切に修了して、次のレベルの学校教育、労働（雇用以外）、雇用、その他の成人生活の領域に入ること。

d8300 高等教育への進学・進級

高等教育に入り、また高等教育の一つの段階から次の段階へと移行するのに必要なことを行うこと。

d8301 高等教育の継続

高等教育への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば、授業に出席する、教師や仲間と適切に交流する、学生として必要な義務や求められていることを実行すること。

d8302 高等教育の進行

履修要項、試験、あるいは高等教育の取得に関連するその他の評価過程を完了するのに必要なことを行うこと。

d8303 高等教育の終了

高等教育を適切に修了して、次のレベルの学校教育、仕事、就職その他の成人生活の領域に入ること。

d835 学校教育時の生活や課外活動

学校生活や学校関連団体に関与すること。例えば学生自治会や学生役員。

遊び (d880)

d880 遊びにたずさわる

物品、おもちゃ、素材、ゲームを使った活動に、ひとりや、他の人とともに、目的を持って持続的にたずさわること。

d8800 ひとり遊び

物品、おもちゃ、素材、ゲームを使った活動に、ひとりで、目的を持って持続的にたずさわること。

d8801 傍観遊び

他の人が物品、おもちゃ、素材、ゲームを使って行う遊びに自分は加わらないが、それを目的を持って観察すること。

d8802 平行遊び

他の人も遊んでいるそばで、それには加わずに、物品、おもちゃ、素材、ゲームを使った活動に目的を持って持続的にたずさわること。

d8803 共同遊び

物品、おもちゃ、素材、ゲームを使った活動に、他の人と一緒に、共通の目標または目的を持って、持続的にたずさわること。

d910 コミュニティライフ

コミュニティにおける社会生活のあらゆる面に関与すること。例えば、慈善団体、社会奉仕クラブ、専門職の社会的団体に関与すること。

d9103 非公式なコミュニティライフ

運動場、公園、街かどのカフェ、広場、その他の公共の空間での公共の集まりに他の人々とともに関与すること。

d920 レクリエーションとレジャー

含まれるもの：遊び、ゲーム、スポーツ、芸術と文化、工芸、趣味、社交。

d9200 遊び

ルールのあるゲーム、構造化や組織化がされていないゲーム、自然発生的なレクリエーションへ関与すること。例えば、チェスやトランプをすることや、~~子どもの遊び~~。ボードゲーム（碁・将棋・チェスなど）や一定のルールをもった活動（例：かくれんぼ）。

d9202 芸術と文化

芸術的あるいは文化的な行事への関与と鑑賞。例えば、演劇、映画、博物館、美術館へ行くこと。演劇で役を演ずること、ダンス、本を読んでもらうこと、読書すること、合唱すること、楽器を演奏すること。

d9203 工芸

手工芸（例えば、陶芸や編物）へ関与すること。おもちゃ等を作るために木工作業をすること。

d9204 趣味

娯楽（例えば、切手収集、硬貨収集、骨董収集。石、貝殻、絵の収集）へに関与すること。

d940 人権

国家的かつ国際的に認められ、人間であれば誰もが与えられる権利の享受。例えば、世界人権宣言（1948）や国連・障害者の機会均等化に関する標準規則（1993）、国連・児童の権利に関する条約（1989）によって認められた人権。自己決定や自律の権利。自分の運命を管理する権利の享受。

環境因子

e110 個人消費用の生産製品や物質

含まれるもの：食品（含：母乳）、飲み物、薬。

e1100 食品

消費の 食べるために採集されたり、加工されたり、製造されたりした、天然あるいは人工の物体品や物質。例えば、さまざまな成分からなる生の食べ物や飲み物。さまざまな成分からなる加工や調理がされた食べ物や飲み物。ハーブやミネラル（ビタミンや他の補助食品）。

e1150 日常生活における個人用の一般的な生産製品と用具

日々の活動において用いる装置、生産製品、用具のうち、子ども用用具のように年齢に適したものにしない以外には 改造や特別設計はなされていないもの。例えば、衣服や織物。家具や器具。清掃用の製品や道具。

e 1152 遊び用の製品と用具

一人あるいはグループによるルールのあるまたはない遊びに用いる装置、製品、用具のうち、年齢に適したものにしない以外には改造や特別設計はなされていないもの。

e 11520 遊び用の一般的な製品と用具

遊びに用いる物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、積み木、ボール、ミニチュア、ゲーム、パズル、ブランコ、すべり台。

e 11521 遊び用の改造された製品と用具

遊びを支援するために改造や特別設計がなされた物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、リモート・コントロールのミニチュア自動車、改造した公園の遊具。

e1200 個人的な屋内外の移動と交通のための一般的な生産製品と用具

屋内外を移動するために用いる装置、生産製品、用具であって、三輪車や乳母車のように年齢に適したものにしない以外には 改造や特別設計はなされていないもの。例えば、陸上や水上、空中を移動する際に用いる、動力つきや動力なしの乗り物（例：バス、車、バン、その他の動力のある車両や動物による輸送）。

e1450 宗教とスピリチュアリティ儀式用の一般的な生産製品と用具

宗教やスピリチュアリティ儀式に関連して象徴的意味を与えられたり、もつようになった、独特のあるいは量産された生産製品と用具であって、年齢に適したものにしない以外には 改造や特別設計はなされていないもの。例えば、（タイ土着宗教の）精霊の家、メイポール、かぶり物、仮面、十字架、（ユダヤ教の）燭台、（イスラム教の）礼拝用敷物。

e 1503 公共の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品と用具

公共の利用のための建物内外の製品と用具であって、安全を確保するためのもの。例えば、ベッドの安全柵や緊急用標識。

e155 私用の建物の設計・建設用の生産品製品と用具

私的な利用のために計画・設計・建設された、人工的な環境の建物内外を形作る生産品製品と用具（例：自宅、住居）。改造や特別設計がなされたものを含む。

e 1553 私用の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品

私的な利用のための建物内外の製品と用具であって、安全を確保するためのもの。例えば、安全柵、緊急用標識、危険な物品(武器など)や物質（溶剤、殺虫剤など）の安全な貯蔵など。

e165 資産

経済的な交換価値のある生産品製品や事物。例えば、金銭、商品、資産、その他の貴重品で、個人が所有するか、あるいは使用権をもつか、小児や被扶養者のための扶養料や遺言によるものなどのように受益権をもつもの。

e575 一般的な社会的支援サービス・制度・政策

買い物や家事、交通、子どものケア、レスパイトケア（介護者の休息のためのケア）、セルフケア、他者のケアなどに援助を必要としている人々が、社会においてより十分に機能できるように、支援を提供することを目的としたサービス、制度、政策。

e 57500 家族や友人による子どもや大人に対する非公式な世話

e 57501 サービス提供者の自宅で提供される家族デイケア

e 57502 小児または成人向けのケアサービスセンター（営利または非営利の）

e5850 教育と訓練のサービス

普通教育と知識や学識、職業的技能、芸術的な技能の修得、維持、向上とに関わるサービスやプログラム。各種の教育レベル（例：就学前、小学校、中学校、後期中等教育以後の教育機関、専門職教育プログラム、訓練や技能プログラム、徒弟（見習）教育、生涯教育）で提供されるサービスやプログラム。また、これらのサービスの提供者を含む。

e 5853 特別な教育・訓練のサービス

特別な教育と、知識や学識、あるいは職業的または芸術的な技能の修得、維持、向上とに関わるサービスやプログラム。例えば各種の教育レベル（例：就学前、小学校、中学校、後期中等教育機関、専門職教育プログラム、訓練や技能プログラム、徒弟（見習）教育、生涯学習）で提供されるサービスやプログラム。これらのサービスの提供者を含む。

e 5854 特別な教育と訓練の制度

特別な教育プログラムを提供するための行政的な管理と監視の機構。例えば、公的あるいは私的な教育への、また、特別なニーズに基づいたプログラムへの入学資格を認定するための政策や基準を運用する制度。また、カリキュラム、クラスの規模、地域における学校数、授業料や補助金、特別給食プログラム、放課後のケアサービスを含む教育制度のさまざまな課題を統括するために設置された、地区、地域、国における教育委員会や権限を持つその他の団体に関して、政策や基準を運用する制度。

e 5855 特別な教育と訓練の政策

特別な教育プログラムを提供するための立法や規制、基準。例えば、公的あるいは私的な教育への、また、特別なニーズに基づいたプログラムへの入学資格を認定するための政策や基準。また、カリキュラム、クラスの規模、地域における学校数、授業料や補助金、特別給食プログラム、放課後のケアサービスを含む教育制度のさまざまな課題を統括するために設置された、地区、地域、国における、教育委員会やその他の権限を持つ団体に関する政策や基準。

コスタリカにおける生活機能調査

分担研究者 上田 敏 日本障害者リハビリテーション協会 顧問

研究要旨 昨年度において、社会的文化的背景を異にする外国で我が国と同じ基準・手順を用いて生活機能調査を行うことでそれら基準・手順の普遍妥当性を検証することを目的として、中米コスタリカの首都近郊住宅地のエレディア州ベレン郡（人口約 35,000 名）において 1,502 名の成人（18 歳以上）に「中核的評価指標」を中心とし、ICF 全体に及ぶ調査票を用いて面接調査を行い、その結果、活動・参加の評価点基準、各項目間の難易度順・頻度順、年齢差等について、一部（宗教行事への参加、等）を除き基本的に我が国同様の結果が得られた。しかし対象地区が首都近郊の専門職者や富裕層の多い地区であったことによる偏りの可能性もあり、また 18 歳以上の成人に限ったことが、別に報告する ICF-CY（国際生活機能分類・児童版）との関連において適切でない面もあったので、今年度は南部でパナマ共和国と接し、比較的貧困層、労働者の多いブルンカ地方ペレセレドン郡（人口約 136,000 名）の全 11 地区において、3 歳以上の全年齢層にわたる 1,507 名について同一の方法で調査を行った。その結果児童を含めて昨年同様の結果が得られた。それによってこれまで我々が我が国の多数例の調査にもとづいて検討し、確立してきた評価点基準その他の評価法に関する結論の普遍妥当性が確認された。

A. 研究目的

従来我々は「生活機能低下者」（全年齢の各種障害者、要介護者、難病患者、各種福祉サービス対象者、等）に共通する「中核（コア）的評価指標」ならびにその利用・活用のためのガイドラインを国際生活機能分類（ICF）に立って開発することを最終目的として、身体障害者手帳（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害、等）所持者、介護保険要介護認定者、及び比較のための一般高齢者、計 19,916 名の生活機

能調査データの分析を行い、それにもとづいて、1）「活動と参加」のリストの使用項目、2）活動および参加の評価点基準について再検討し、その意義・有用性を確認する等の研究を行ってきた。

その研究を更に発展させるために、社会的文化的背景を異にする外国において我が国と同じ基準・手順を用いて生活機能調査を行うことで、それら基準・手順の普遍妥当性を検証することを目的に、昨年度は中米コスタリカの首都近郊住宅地であり、専

門職者や富裕層の多い地区であるエレディア州ベレン郡（人口約 35,000 名）において 1,502 名に「中核的評価指標」を中心とし、ICF 全体に及ぶ調査票を用いて面接調査を行い、その結果、活動・参加の評価点基準、各項目間の難易度順・頻度順、年齢差等について、一部（宗教行事への参加、等）を除き基本的に我が国同様の結果が得られた。しかし対象地区がの特性による偏りの可能性も考えられ、また 2006 年 10 月に案が発表され、2007 年 11 月に最終版が発表された ICF-CY（国際生活機能分類・児童版）についての検討をすすめている（別に報告する）こととの関連において、昨年 の調査対象を 18 歳以上の成人に限ったことが、必ずしも適切でない面もあるので、今年度は同国内で対象地区を変え、南部でパナマ共和国と接し、比較的貧困層、労働者の多いブルンカ地方ペレセレドン郡（人口約 136,000 名）の全 11 地区において、3 歳以上の全年齢層について同一の方法で調査を行った。

B. 研究方法

1) 対象国地域および調査実施機関

対象国としてコスタリカを選んだ理由は次の通りである：

- (1) 中米随一の経済発展・政情安定国であり、貧富の差が少なく、文化度が高い。最近の国連統計によれば人口一人当たりの国民総生産は 9,000 ドル（日本は 33,100 ドル）であり、もはや途上国ではなく、中進国である。
- (2) これまで 6 年にわたり JICA による技術援助の中で ICF に関する関係者の関

心と理解を高めてきている。

(3) さらに昨年度対象とした比較的富裕層の多い首都圏の高級住宅地（エレディア州ベレン郡）と今年度対象としたブルンカ地方ペレセレドン郡とは経済・産業・文化の多くの面で対照的であり、この 2 地方を対象とすることでコスタリカの実情により近い状況把握が可能である。

なお、コスタリカは面積約 50,700 km²（日本の約 13.4%）、人口約 400 万（日本の約 3.2%）であり、北緯 10 度前後の熱帯に位置するが、国土の大半が高地であるため、気候は比較的穏和である。産業は従来農業（バナナ・コーヒー）中心であったが、最近では精密工業の比重が高まっている。

調査の実施はコスタリカ国家リハビリテーション・特殊教育審議会に委託した。この審議会はコスタリカにおける障害者福祉および総合的リハビリテーションに関する政策の総合調整および障害者福祉実施機関であり、首都に位置する本部の他に全国 7 地方に支部を有し、権威ある国家機関である。

2) 調査対象者

南部ブルンカ地方ペレセレドン郡（人口約 136,000 名）の全人口（3 歳以上）から無作為に抽出した 1,507 名につき調査し、うち年齢・性別・障害の有無に欠測値のあった者を除く 1,501 名（3～93 歳）を分析の対象とした。なお、障害の生活機能に及ぼす影響を検討する目的で、比較を容易にするために、障害のある者（以下障害者）が障害のない者（以下非障害者）よりも高い比率で抽出されるように設計した。その結果対象者の内訳は非障害者 1,304 名（男性

653名、女性651名)、障害者197名(男性97名、女性100名)であった。ちなみにこの地区はパナマ共和国との国境に近く、比較的貧困で、農業に従事する労働者層の比重の高い地域である。

3) 調査方法

当研究班が作製し、日本で用いたと同じ調査用紙(下記)およびマニュアルを用いた訪問・面接法で行った。

4) 調査用紙

次のものを含む。

- (1) 活動(全章 全中項目あるいはブロック)
- (2) 参加(6~9章、全中項目あるいはブロック)
- (3) 心身機能・身体構造(全大項目)
- (4) 環境因子(全大項目)
- (5) 主観的側面(活動・参加・心身機能・身体構造・環境因子への満足度5項目と、自尊心その他の総合的主観的状态5項目)

なお、このうち活動の5~9章、参加の

6~9章が中核的部分であり、調査票の最初におかれる。

調査票及びマニュアルは昨年と同様に当方が英語版を作成・送付し、それをコスタリカ側がスペイン語に翻訳した(誤訳がないよう可能な限りチェックした)ものを用いた。内容については昨年の報告書に示したとおりである。

(倫理面への配慮)

対象となる被検者についてはインフォームド・コンセントの原則に立ち、文書にて同意を得て実施している。

また、データはすべて統計的に処理し、個人データとしては用いない。

C. 研究結果ならびに考察

1. 対象者の特性

1) 年齢・性別

年齢・性別分布は表1-1(非障害者)~1-2(障害者)に示すとおりである。

表 1-1. Age and sex distribution of participants (with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~84	Total
Male	135 20.7%	77 11.8%	81 12.4%	65 10.0%	92 14.1%	79 12.1%	47 7.2%	42 6.4%	35 5.4%	653 100%
Female	39 6.0%	57 8.8%	95 14.6%	150 23.0%	107 16.4%	100 15.4%	67 10.3%	24 3.7%	12 1.8%	651 100%

表 1-2. Age and sex distribution of participants (with disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~84	Total
Male	6 6.2%	4 4.1%	9 9.3%	12 12.4%	13 13.4%	12 12.4%	20 20.6%	15 15.5%	6 6.2%	97 100%
Female	3 3.0%	3 3.0%	10 10.0%	8 8.0%	17 17.0%	18 17.0%	18 18.0%	16 16.0%	7 7.0%	100 100%

年齢については非障害者の男性の3～15歳、女性の25～34歳が多いが、その他は妥当な分布と思われる。一方性別については女性が僅かに多く、これはペレセレドン郡の男女比率（49.6%対50.4%）にほぼ等しい。

2) 回答者：本人・家族の別

回答者は非障害者ではほとんどが本人であり、家族が代わって回答したのは男性の0.5%、女性の0.6%に過ぎなかった。障害者では男性の32.0%、女性の49.0%で家族が代行していた。

3) 疾患

「現在治療を受けている疾患があるか」の問に対する回答は表2-1～2-4に示すとおりであり、全体として多く、明らかに障害者に多い。非障害者でも男女とも55歳以上の年齢層では4～9割がが疾患をもっていた。44歳以下では障害者にくらべ、非障害者でははるかに少なかった。

疾患の有無の生活機能、特に「活動」への影響について検討した結果は後に述べる。

4) 障害

障害種別は運動障害（35～36%）、なかでも下肢障害が最も多く、ついで精神障害約17%（知的障害を含む）、視覚障害（10%前後）、言語聴覚障害（5%前後）、等である。

障害を有するようになってからの期間は男女ともに「5年以上」が多く（男女とも約6割）、「1～5年」「1年以内」の順に少なくなる。

5) 職業

職業には著明な男女差があり、障害の有無による差はそれほど大きくなかった。すなわち、非障害者の男性では肉体労働

14.5%、事務員5.4%、自営5.1%、その他68.1%で、女性では69.7%（55歳以上では90～100%）が家事に従事していた。障害者の女性では80.0%が家事（特に45～74歳の年齢層ではほぼ90%）であった。それに対し男性では、肉体労働16.5%、自営業10.3%、等で57.7%がその他であった。

6) 社会的支援

社会的支援では非障害者で男性の10.8%、女性の11.2%が何らかの支援を受けていた。障害者では男性の44.3%、女性の42.3%が支援を受けており、内訳では障害年金がその大部分を占める（男性の9割、女性の8割）。住宅クーポン、教育省奨学金などがそれに次ぐ。

2. 生活機能の状況（1）：活動

以下の表で表頭は年齢層、表側は評価点（活動の場合は自立度）を示す。評価点基準は厚生労働省社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会の暫定基準と同じものを用いた。それは次の通りである。

0. 普遍的自立：生活の場以外での環境

（外出時、旅行時などにおける環境）においても自立している

1. 限定的自立：生活の場（当人の状況に応じて自宅、自宅の一部、病院、施設など）およびその近辺の、限られた環境のみで自立している

2. 部分的制限：部分的な人的介護（※）を受けて行っている

※「部分的な人的介護」

- は「見守り」「うながし」等を含む
3. 全面的制限：全面的な人的介護を受けて行っている
4. 行っていない：禁止の場合を含み行っていない
- なお、99 は欠測値、999 は非該当を示す。

表 2-1. Morbidity of participants (males with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
Disease (+)	16 11.9%	5 6.5%	10 12.3%	2 3.1%	17 18.5%	32 40.5%	18 38.3%	25 59.5%	25 71.4%	150 23.0%
Disease (-)	119 88.1%	72 93.5%	71 87.7%	63 96.9%	75 81.5%	47 59.5%	29 61.7%	17 40.5%	10 28.6%	503 77.0%
Total	135 100%	77 100%	81 100%	65 100%	92 100%	79 100%	47 100%	42 100%	35 100%	653 100%

表 2-2. Morbidity of participants (females with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
Disease (+)	3 7.7%	5 8.8%	7 7.4%	23 15.3%	25 23.4%	44 44.0%	46 68.7%	18 75.0%	11 91.7%	182 28.0%
Disease (-)	36 92.3%	52 91.2%	88 92.6%	127 84.7%	82 76.6%	56 56.0%	21 31.3%	6 25.0%	1 8.3%	469 72.0%
Total	39 100%	57 100%	95 100%	150 100%	107 100%	100 100%	67 100%	24 100%	12 100%	651 100%

表 2-3. Morbidity of participants (males with disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
Disease (+)	2 33.3%	2 50.0%	6 66.7%	6 50.0%	6 46.2%	9 75.0%	16 80.0%	13 86.7%	4 66.7%	64 66.0%
Disease (-)	4 66.7%	2 50.0%	3 33.3%	5 41.7%	7 53.8%	3 25.0%	4 20.0%	2 13.3%	2 33.3%	32 33.0%
Data missing	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%
Total	6 100%	4 100%	9 100%	12 100%	13 100%	12 100%	20 100%	15 100%	6 100%	97 100%

表 2-4. Morbidity of participants (females with disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
Disease (+)	2 66.7%	2 66.7%	4 40.0%	6 75.0%	11 64.7%	13 72.2%	13 72.2%	15 93.8%	7 100%	73 73.0%
Disease (-)	1 33.3%	1 33.3%	6 60.0%	2 25.0%	6 35.3%	5 27.8%	5 27.8%	1 6.3%	0 0.0%	27 27.0%
Total	3 100%	3 100%	10 100%	8 100%	17 100%	18 100%	18 100%	16 100%	7 100%	100 100%

「活動」の代表としてまず歩行をとりあげる。

1) 屋外歩行

屋外歩行 (a 4602) についての結果を表 3-1 ~ 3-4 に示す。

まず非障害者と障害者とを全体として比較すると非障害者では男女ともに普遍的自立が 95.4% で、限定的自立以下は極めて僅かなのに対して、障害者では普遍的自立は 3 ~ 4 割にすぎず、部分的制限がそれに次いで多く、さらに非障害者には存在しない「行っていない」も少なからず存在する。

このように障害者に屋外歩行低下者が多いのはいわば当然であるが、非障害者にも少数ながら限定的自立以下の者があることは注目される。これは高齢者に多く、男性では限定的自立は 55 歳以上の 3 群ですべて 10% 以上であり、部分的制限は 45 歳以上で出現し、75 歳以上では 11.4% に達する。非障害者では女性は男性に比べ高齢者での低下が更に著しい。

ここで特に注目されることは、わが国の高齢者の多数例での生活機能調査で確認されている普遍的自立と限定的自立との間で

の「相補的」な関係がみられることである。

すなわち非障害者女性では 45 ~ 54 歳、55 ~ 64 歳、65 ~ 74 歳、75 ~ の 4 群の間で、普遍的自立が 97.0%、85.1%、70.8%、58.3% と著明に減少していくのに対して、限定的自立があたかもそれを代償するかのようになり 3.0% から 25.0% まで増加していき、その結果普遍的自立と限定的自立を合計した「自立」一般をみると 4 群で 100%、97.0%、87.5%、83.5% と減少が極めて僅かに抑えられることである。同様の現象は非障害者男性にも認められる。障害者群に置いては年齢に関連しての一定の傾向はみられないが、これは当然のことながら年齢よりも障害自体の影響が大きいと考えられる。

2) 自宅内歩行

表 4-1 ~ 4-4 に自宅内歩行 (a 4600) についての結果を示す。

まず普遍的自立と限定的自立との間の「相補的」関係についてみると、屋外歩行同様に非障害者女性の 45 歳以上の 4 群にいて著明であり、男性においてもほぼ同様であり、屋外歩行の場合よりも著しい。

表 3-1. a4602 moving around outside the home and other buildings (males with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
0	134 99.3%	77 100%	81 100%	64 98.5%	91 98.9%	74 93.7%	40 85.1%	36 85.7%	26 74.3%	623 95.4%
1	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.1%	2 2.5%	6 12.8%	5 11.9%	5 14.3%	21 3.2%
2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.8%	1 2.1%	1 2.4%	4 11.4%	9 1.4%
3										
4										
Total	135 100%	77 100%	81 100%	65 100%	92 100%	79 100%	47 100%	42 100%	35 100%	653 100%

表 3-2. a4602 moving around outside the home and other buildings
(females with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
0	39 100%	57 100%	95 100%	150 100%	102 95.3%	97 97.0%	57 85.1%	17 70.8%	7 58.3%	621 95.4%
1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.7%	3 3.0%	8 11.9%	4 16.7%	3 25.0%	22 3.4%
2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	2 3.0%	2 8.3%	2 16.7%	7 1.1%
3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	1 0.2%
4										
Total	39 100%	57 100%	95 100%	150 100%	107 100%	100 100%	67 100%	24 100%	12 100%	651 100%

表 3-3. a4602 moving around outside the home and other buildings
(males with disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
0	1 16.7%	3 75.0%	3 33.3%	5 41.7%	4 30.8%	4 33.3%	10 50.0%	6 40.0%	3 50.0%	39 40.2%
1	0 0.0%	0 0.0%	3 33.3%	1 8.3%	1 7.7%	3 25.0%	3 15.0%	2 13.3%	2 33.3%	15 15.5%
2	2 33.3%	1 25.0%	2 22.2%	4 33.3%	5 38.5%	4 33.3%	2 10.0%	3 20.0%	0 0.0%	23 23.7%
3	2 33.3%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	3 23.1%	0 0.0%	2 10.0%	3 20.0%	1 16.7%	12 12.4%
4	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	3 15.0%	1 6.7%	0 0.0%	7 7.2%
9 9	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%
Total	6 100%	4 100%	9 100%	12 100%	13 100%	12 100%	20 100%	15 100%	6 100%	97 100%

表 3-4. a4602 moving around outside the home and other buildings
(females with disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
0	0 0.0%	1 33.3%	7 70.0%	3 37.5%	5 29.4%	8 44.4%	3 16.7%	4 25.0%	2 28.6%	33 33.0%
1	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 12.5%	3 17.6%	2 11.1%	5 27.8%	4 25.0%	1 14.3%	17 17.0%
2	0 0.0%	1 33.3%	2 20.0%	3 37.5%	4 23.5%	6 33.3%	7 38.9%	6 37.5%	2 28.6%	31 31.0%
3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.8%	2 11.1%	1 5.6%	2 12.5%	1 14.3%	8 8.0%
4	3 100%	0 0.0%	1 10.0%	1 12.5%	3 17.6%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	1 14.3%	11 11.0%
Total	3 100%	3 100%	10 100%	8 100%	17 100%	18 100%	18 100%	16 100%	7 100%	100 100%

次に自宅内歩行のデータを先に述べた屋外歩行と比較すると、4群の全て、特に障害者群において自宅内歩行のほうが自立度が高い。普遍的自立について比較すると、障害者男性において屋外歩行40.2%に対して自宅内歩行56.7%、同じく女性においては屋外歩行33.0%、自宅内歩行49.0%であり、明らかに自宅内歩行の方が自立度が高い。これは、我国における成績と一致している。

また興味あることにこの2種類の「活動」の間にも「相補的」な関係がみられる。すなわち試みに普遍的自立と限定的自立とを合計して「自立」一般としたもので比較すると、障害者男性においては屋外歩行55.7%対自宅内歩行70.1%、同じく女性では屋外歩行50.0%対自宅内歩行60.0%と差が縮まるのである。

3) セルフケア

第5章セルフケアの7中項目のうちa550 食べるとa560 飲むとを併合した6項目、すなわちa510 (全身を洗う)、a520 (身体各部の手入れ)、a530 (排泄)、a540 (更衣)、a550+a560 (食べる・飲む)、a570

(健康に注意する)について比較すると、非障害者ではほとんどが普遍的自立の状態にあり、全体として大きな違いはなく、年齢による差も少ない。また非障害者ではごく僅かな例外(後述)を除き、普遍的自立と限定的自立の状態にある。これに対して障害者では普遍的自立は男性では整容の88.7%から「健康に注意する」の80.4%の間、女性では排泄の83.0%から「健康に注意する」の68.0%の間にあり、女性がやや低い。また非障害者でも「健康に注意する」には例外的に低いものがあるなど、「健康に注意する」は他の一般的なセルフケアとはやや異質な面を持っている。

(1) 整容

表5-1~5-4に一般的なセルフケアの例としてa520 Caring for body parts (身体各部の手入れ、整容)のデータをあげる。

非障害者については前述の通り自立度は概して非常に高く、年齢との関係についても45~54歳と75歳以上の2層に少数の限定的自立のものがいるだけで著明ではない。

表4-1. a4600 moving around within the home (males with no disabilities)

	3~15	16~18	19~24	25~34	35~44	45~54	55~64	65~74	75~	Total
0	134 99.3%	77 100%	81 100%	64 98.5%	92 100%	75 94.9%	41 87.2%	37 88.1%	27 77.1%	628 96.2%
1	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	2 2.5%	5 10.6%	4 9.5%	6 17.1%	19 2.9%
2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	1 2.1%	1 2.4%	2 5.7%	6 0.9%
3										
4										
Total	135 100%	77 100%	81 100%	65 100%	92 100%	79 100%	47 100%	42 100%	35 100%	653 100%